

# 「Beyond 2050 プロローグ」 京都大学が描く未来の社会像

京都大学では、2050年以降も通用する新たな価値基準を創造し、  
世界に貢献することを目的に、研究組織「Beyond2050」を立ち上げます。



## 本シンポジウムでは、

それぞれの分野の第一線で活躍する本学  
教員に、目指すべき未来社会について、語っ  
てもらいます。本シンポジウムを通じて、皆  
様にも「Beyond2050」でなされるであろ  
う議論の一端を体感していただけます。

今後もシンポジウムを通して、皆様と共に  
新たな世界を構想してまいりたく存じます。  
ぜひ、ご参加ください。

**2023.11.10** 金  
**13:30-16:30** — 開場 13:00

[会場] 国際科学イノベーション棟西館5Fシンポジウムホール(現地開催のみ)

[参加費] 無料(要事前登録)

[対象] サステナビリティ戦略立案に関わる方 100名程度

[お問合せ] [kensyu@kyodai-original.co.jp](mailto:kensyu@kyodai-original.co.jp)

[主催] 京都大学オープンイノベーション機構、京都大学人と社会の未来研究院

[共催] 京都大学大学院人間・環境学研究科学術越境センター

京都大学学際融合教育研究推進センター

申し込みフォーム



イベント情報  
はこちら



# TIME SCHEDULE

司会進行(オープンイノベーション機構Beyond 2050構想室 香月 亜美)

13:30~13:35	開会挨拶・趣旨説明 オープンイノベーション機構 機構長 阿曾沼 慎司 氏
13:35~13:45	<p><b>パネリストによる話題提供1 - 「文化心理学から見た未来社会のウェルビーイング」</b></p> <p>今を生きる私たちのウェルビーイング、そして未来社会のウェルビーイングについてどのように考えていくことができるだろうか。文化心理学・社会心理学は異なる文化の比較から見えてくることをデータで提示していくが、時系列での変化などもふまえた未来社会を描くこともできるかもしれない。複合的な学問分野との協働から、未来社会のウェルビーイングな場づくりに期待されることを考察する。</p> <p>人と社会の未来研究院 院長・教授 内田 由紀子 氏</p>
13:45~13:55	<p><b>パネリストによる話題提供2 - 「Beyond 2050の”健康なくらし”を妄想する」</b></p> <p>新技術は、それを利用できる者とできない者の格差をもたらす。したがって技術開発が今後加速するならば、健康格差は今後ますます重要なテーマとなる。また、人々が長寿化して病気や障害との共生が重要となってくると、これまでにない健康観が生まれるだろう。格差を是正し、多様な健康観を受容するための社会イノベーションとは何か。持続可能な健康社会をつくるために必要なことは何か。大胆な未来予想シナリオをもとに考察する。</p> <p>医学研究科 教授 近藤 尚己 氏</p>
13:55~14:05	<p><b>パネリストによる話題提供3 - 「脱炭素 AND 経済成長-Beyond 2050 を見据えた戦略-」</b></p> <p>現在および将来世代に甚大な影響をもたらす気候変動。そのリスクの緩和には、世界が協調してパリ協定の目標を達成していくことが求められているが、温室効果ガスの大幅削減は容易ではなく、実際には各国間の協力も円滑に進んでいるとは言い難い。持続可能な社会の実現に向けて、この問題にどのように対応していけばよいか。カーボンニュートラルやその先の2050年以降の脱炭素社会を見据えた方策を経済学的視点から考察する。</p> <p>経済学研究科附属プロジェクトセンター リサーチフェロー 井上 恵美子 氏</p>
14:05~14:15	休憩
14:15~16:15	<p><b>パネルディスカッション</b></p> <p>ファシリテーター 人間・環境学研究科 学術越境センター長・教授 齋木 潤 氏</p> <p>パネリスト3名(内田氏、近藤氏、井上氏)</p>
16:15~16:30	閉会挨拶 オープンイノベーション機構 Beyond 2050 構想室長・名誉教授 石原 慶一 氏

※ 会期終了後、17:30までネットワーキング会(任意参加)



学術越境センターでは、2050年以降の社会の中核を担う大学院生たちの学術越境のサポートを目指しています。

学術越境的研究をリードしてきた先生方との議論を通じて大学院教育の中に学術越境を根づかせるためのヒントが得られることを期待しています。

